

県内の野生イノシシにおける豚疾病の浸潤状況調査：

岡山県岡山家保家畜病性鑑定課 梯 洋 介

野生イノシシは様々な豚疾病の感染源と言われており、農場へのまん延防止の観点から令和6年度当所に搬入された野生イノシシの血清等を用いて各種豚疾病浸潤状況調査を実施。豚熱ウイルス（CSFV）は遺伝子検査及び抗体検査を、アフリカ豚熱ウイルス（ASFV）、豚サーコウイルス2型（PCV2）及び3型（PCV3）は遺伝子検査を、豚繁殖・呼吸障害症候群ウイルス（PRRSV）及び豚インフルエンザウイルス（SIV）は抗体検査を実施。遺伝子が検出された個体の割合は、CSFVは9.7%（38/390）、ASFVは0%（0/390）、PCV2は43.2%（108/390）、PCV3は8.0%（20/250）。抗体陽性個体の割合は、CSFVは8.5%（33/304）、PRRSVは0.3%（1/304）、SIVは2.3%（7/304）。PRRSV陽性個体は遺伝子検査を実施したが遺伝子検出されず。県内の野生イノシシにも豚疾病が浸潤していることが確認されたことから、野生イノシシにおける各種疾病の感染状況を把握するため、今後とも検査と分析が必要。